

醫言錄要秘錄

上

珍本

F
1-31



醫士川文庫

912

醫學博士
川文庫
912

寛政四年六月廿

丁酉年六月廿

日

右著書

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

徳山寺年々
長山寺書

右書段用紙一、百廿九帖、後在病

書、
徳山寺書

甲川印
乙川印

徳山寺書、
乙川印

書、
乙川印

甲川印
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

書、
乙川印

海峽を渡るにありしより古蹟書局を以て用
事代別府元摺相并中書右丞相唐書局
書局を以て用事代別府元摺相并中書右丞相
唐書局を以て用事代別府元摺相并中書右丞相

右夜相何の如し

三月

中川幼童
りかたは多し

男書後部より夜相何の如し

一書後部私三日之宛女之成漢唐相法
も其体果して見ゆるは相子之法は相子に

揚別染し夜相何の如し相法は漢唐相法
くやの如き書局より夜相何の如し

一衣箱夜相何の如し相法は漢唐相法

一相法は漢唐相法は漢唐相法は漢唐相法

少書局より夜相何の如し相法は漢唐相法

漢唐相法

一り少書局者姓若相法は漢唐相法

相法は漢唐相法

一導方より夜相何の如し相法は漢唐相法

丁巳年事一己御本仕吏一合致可其〇

他法くは海友と其り上京仕吏

一咽、隔日相結去来也 山浦、其れ相結也

山浦

右、病相候人、行居居、此、病、向、來、仕、吏、也、〇

山浦

病、其れ、相、結、也

二月

山浦

病、其れ、相、結、也

右、病、相、候、人、行、居、居、此、病、向、來、仕、吏、也、〇

此、病、相、候、人、行、居、居、此、病、向、來、仕、吏、也、〇

此、病、相、候、人、行、居、居、此、病、向、來、仕、吏、也、〇
此、病、相、候、人、行、居、居、此、病、向、來、仕、吏、也、〇
此、病、相、候、人、行、居、居、此、病、向、來、仕、吏、也、〇

山浦、其れ、相、結、也

山浦、其れ、相、結、也

右、病、相、候、人、行、居、居、此、病、向、來、仕、吏、也、〇

山浦、其れ、相、結、也

一 俗事之及... 此乃... 唐壽院... 此乃... 唐壽院...

石... 唐壽院...

子九月

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

唐壽院...

一 俗事之及... 唐壽院...

一〇 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

一 一 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

一 一 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

一 一 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

一 一 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

一 一 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

一 一 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

一 一 已述相初以俗筆而後者禮脈之... 爲... 是... 著... 通... 也

○湯劑者は是道より方愈々其申日通用なる

× 先是道より方愈々其申日通用なる

□ 湯劑者は是道より方愈々其申日通用なる

○ 先達之証書を讀みしに申すに白濁は此病の
より尙有用なりと云ふは其の証也又此病は白濁
者用すは其の証也

○ 龍記 七月

○ 河通白惟より有用

左書に記すに方愈々其申日通用なる

五事あり

右書に記すに

箱中紙あり

右之証書を讀みしに申すに白濁は此病の

より

より

右書に記すに

右書に記すに

一 瓶場拾獲

右書に記すに

右書に記すに

外...
張...

日...

廿...

去...

右...
下...

印...

去...

筆...

山...

右...
印...

去...

皇...
右...

度...
皇...

左...
右...

右...
左...

左...
右...

先年之由學方書者有筆及劫令之持抄者事
後者持屏故方有方書中出法之書中各以
印書之書法方之劫令度後之筆及劫令之書
其持抄之方書者持抄之書及劫令之書
列位之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書

方書之書法

方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書

方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書
方書之書法方之劫令度後之書及劫令之書

卯七月廿四日

皇朝版圖及中外海疆之廣人盡知之惟其所以
而中言一政也如以事據其遠者亦為出也如
不知其要者則其文也如海疆之廣也如海疆之
也如海疆之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也

七月廿四日

皇朝版圖

皇朝版圖
皇朝版圖

皇朝版圖之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也
皇朝版圖之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也
皇朝版圖之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也

皇朝版圖之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也

皇朝版圖

皇朝版圖

皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖

皇朝版圖之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也
皇朝版圖之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也
皇朝版圖之廣也如海疆之廣也如海疆之廣也

皇朝版圖

皇朝版圖

皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖
皇朝版圖

長方

山田孫吉郎
山田孫吉郎

二月二十一日

四月廿一日

山田孫吉郎

山田孫吉郎

山田

山田孫吉郎

石門山田

石門山田

石門山田

山田孫吉郎

石門山田

山田孫吉郎

石門山田

石門山田

山田孫吉郎

石門山田

山田孫吉郎

山田孫吉郎

石門山田

山田孫吉郎

山田孫吉郎

石門山田

初方... 其方... 其方... 其方...

可法... 彼七... 其方... 其方...

其方... 其方...

此... 其方... 其方...

一... 其方... 其方...

其方... 其方... 其方...

其方... 其方...

其方... 其方... 其方...

其方... 其方... 其方...

其方... 其方... 其方...

其方... 其方... 其方...

一... 其方... 其方...

其方... 其方...

一... 其方... 其方...

一... 其方... 其方...

其方... 其方...

其方...

其方...

文

書南社在江陰
七十四年

書南社在江陰
七十四年
痛相打針
難果全
補理
場
口
其

七月

書南社在江陰
七十四年

書南社在江陰
七十四年
其

甲子

書南社在江陰
七十四年

書南社在江陰
七十四年
其

三十一日... 後方... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

七月

山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...

右通子... 相... 記...

一一一

己未年日記...

一筆... 記... 己未年...

先... 年...

日... 記...

一醫... 記... 己未年...

先... 年...

己未年...

神... 記... 己未年...

十一日...

己未年...

己未年...

神田花房可也其子乃醫學家也其子孫亦皆醫學家也
其子孫之醫學家也其子孫亦皆醫學家也

三十一

地 橋本

小若谷

其子孫之醫學家也其子孫亦皆醫學家也
其子孫之醫學家也其子孫亦皆醫學家也

三十一

南

山

小若谷

其子孫之醫學家也其子孫亦皆醫學家也
其子孫之醫學家也其子孫亦皆醫學家也

三十一

地 橋本

小若谷

其子孫之醫學家也其子孫亦皆醫學家也
其子孫之醫學家也其子孫亦皆醫學家也

三十一

地 橋本

小若谷

中川勘吉

中川勘吉

石巻藩士行日 仰有山後 中川勘吉

代有山後 仰有山後

中川勘吉

仰有山後

列伝

中川勘吉 福吉

石巻藩士行日 仰有山後

代有山後 仰有山後

仰有山後 仰有山後

仰有山後 仰有山後

仰有山後 仰有山後

仰有山後

仰有山後

仰有山後

仰有山後

仰有山後

仰有山後

仰有山後

引紙等... 引紙等... 引紙等...

子... 子... 子...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙... 引紙... 引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

引紙... 引紙...

ちいばあはれの内用と云ふは及ぶる事申す事申す
いりまはれと云ふは及ぶる事申す事申す
たまひつゝと云ふは及ぶる事申す事申す

△右の振舞ふ事をも度はれは及ぶる事申す事申す

仮出之日の成り

持違ふ事と云ふは及ぶる事申す事申す

何所細所と云ふ

手紙
中書

一黒の骨の成り

三つ

石上直史が掛相物の中身有るは及ぶる事申す事申す
後相物より書高の及ぶる事申す事申す

一黒の骨の成り

九月

手紙
中書

石上直史の及ぶる事申す事申す

醫學書能得事其外何事云

寛政七年一月音揚事其外何事云

寶慶元年三月廿七日

書西園通志後序

三月十日

中刻三
同宮法集

醫學館講堂近復損壞以市布入之其久故損成
丁卯年三月廿七日終後以用言為源知命言九拾五視
有以之生事可仕飲以所不其支令作學館附不藏刊
規出未成多紀廣義院相飲先達之軌通文作波石藏
以入用令拾五條之何所相併右後自之身右以用
以之及三拾五條新規以之令其以之八拾五相成
以之以入用之講堂修復為仕且又之藏善法之修者
是述學館附雜用令之何為門下信事後共出信以而歸

茂臣の母為幸山周見紙海を凡令武拾為禮と相
残て了敏當時相見のころ當世幸未當幸為幸分残
令也拾友視る幸當幸之出来依りて載分列原
山十令之の義出来て依りて為れぬの亦書通講
堂以被彼中村友を以の身以内意中何通以後
の廣壽院に依りて依りて依りて

三月

中川劫三郎

間宮端氏

御津と教は三月上ケ四月七日伊豆と教古藏の山十ケ取附
門八日御津と教は上り

書内通御津依りて依りて
多死廣壽院に依りて依りて
四月七日 間宮端氏

醫者館に新規を載て別建し之而定建多死廣壽
院然もて之 御津と教は山十ケ取附今口掃與余
出来て依りて依りて御津と教は山十ケ取附今口掃與余
て及大取附の身以用積り為れぬ之令七拾九と分
御拾友之令之依りて出来て依りて依りて廣壽院に
依りて依りて出来て依りて依りて依りて山十ケ取附
取小し何卒幸山十ケ取附之流用依りて相建
依りて依りて依りて石講堂依りて依りて依りて
依りて依りて

三月

間宮端氏

石書面劫三郎及幸國山周村依りて依りて依りて

醫學館講堂於後... 相國... 以長... 以建...

四月八日

多紀廣善院友

同宮法...

右前書... 多紀廣善院...

山田廣善院...

四月九日... 多紀廣善院...

中川勲...

醫學館講堂... 多紀廣善院...

多紀廣善院

醫學館講堂... 多紀廣善院...

四月

多紀廣善院

醫學館講堂...

醫學館講堂... 多紀廣善院...

四月

請取。令子之事

高令七拾九或分根拾三之六分也

令之拾五者

石走者醫學館講堂後科令為以內備書而
通請取。知仍詳

寬政之七年四月

間宮諸君

間宮諸君

表書。令之拾五者

四月

醫學館講堂

後科令為以內備書而

小栗伊兵衛友

上野若菜友

江戶傳右衛門友

佐甚八下

村九右衛門

久典吉清中

佐長中

曲甲斐中

根元中

久丹後中

柳之膳中

拂方以令其行元

醫學館講堂の事
四月十九日
山田孫右衛門
山之上友之助

四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

四月十九日

中川勘三郎
同官法政

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

醫學館講堂の事
四月十九日

七月

中川勘三郎

醫學館講堂の事
七月十九日

七月十九日

支那の医学

作波取知佳

七月六日 中川勘三郎
石見法橋

以度以下ケ令以醫學館講堂修後
皆出年法石可出年取見分以列版之以後後
右講堂之儀元以普請列成之
誠見分之法以心版中
七月

中川勘三郎
同定法橋

請取令子之事

高令七拾九与式分根拾之

令武拾九与式分根拾之

外

令令

高令

右尾者醫學館講堂被修料為以令書
請取知仍之符

寛政之七年八月

同宮諸在

小栗伊左衛門

上野首直

新本傳

表書令武拾九与式分根拾之

文有

七月

肥十向石邊下

出府

人日胎

伏甚八

村左支平

伏長川子平

曲甲斐子

根肥赤子

久丹後子平

柳王胎正平

柳方正令子平

寛政一黄年清言

門口以上

久世丹後

中川勘之

石支流

多紀永寿院

醫學館

醫學館之医師

症治

何事

以下

外

三月

多紀永寿院

劫三帝皮書面之軌取才以信事被之云作波の思意存之云
後三月廿四日

醫學館以家根以修後同書

一醫學館以家根以修後同書
并分未信之皮根在源右邊の孔積之系統之好
牙荒増信之通の好

想以家根在来古板の定着是寺の是持折板
皮武枚重押録移寺貫又寺行の或るは年打
凡苗の枚小刺人寺の野地來年朽損の分是
小箱仕凡並の法久之式積

代銀

奈及則瓦根坪凡之式拾坪余

但 寺坪積
根家積

右者七下付の以修後同の云

三月

寺同の費

一令拾九之式分根拾の七下八重

右是者去七年の用の方殘食の以修後同の令拾式

あ身分根式分の 膏麦中以被訓の想以家根以

被後の方以用先達の方同の通を押仕先以

令七之根拾式分下八重

小田孫江
山上之表之書

一 令武拾五武分根指を多き重

右者當定三月三日迄月日勘定月用之方残
令之月所下五七年残令令武拾七武分根指三
多之下九重有之且令之儀右残令之月古藏
出来仕儀先達之月先号、有之儀、指掛四家根
人取身當定中令拾武五武分余を拂、其支
當時月後下、之、講堂、之、月、取、致、致、各、武、百、武
拾武五、年、有、之、知、七、分、在、り、人、取、相、成、小、身、石、残
令、取、之、月、五、月、終、後、仕、後、身、好、秋、又、勘、年、仕、六、分
通、表、智、并、錄、若、亦、仕、儀、之、儀、中、同、之、儀、亦、休
去、之、日、出、来、仕、儀、之、儀、中、同、之、儀、亦、休

三月

一 首末武石七斗九升九合

右者當定三月三日迄月日勘定月用之方残

一 門口石七斗七升九合

右者當定三月三日迄月日勘定月用之方残
右斗七升九合有之儀、右残令之月古藏
仕、之、例、奉、之、儀、併、佈、并、松、佈、其、外、俸、付、月、用、之、
方、台、を、拂、仕、儀、身、好、之、儀、中、上、之、重、以、之、

三月

右者當定三月三日迄月日勘定月用之方残

山田孫右衛門
山上後之儀

一 愛信
中川勘三郎

醫學館講堂并以後示向該部臣等以事久故臣等
 付以度之通以事智佐右以用命以修定式雜
 用命以事之幸久元富幸壬子月近殘令貳拾七
 復有石鈔令以事以被後修以修上重
 卯三月

寛政八年辛卯月十日

揚津寺教永壽院白以渡文藏小書付

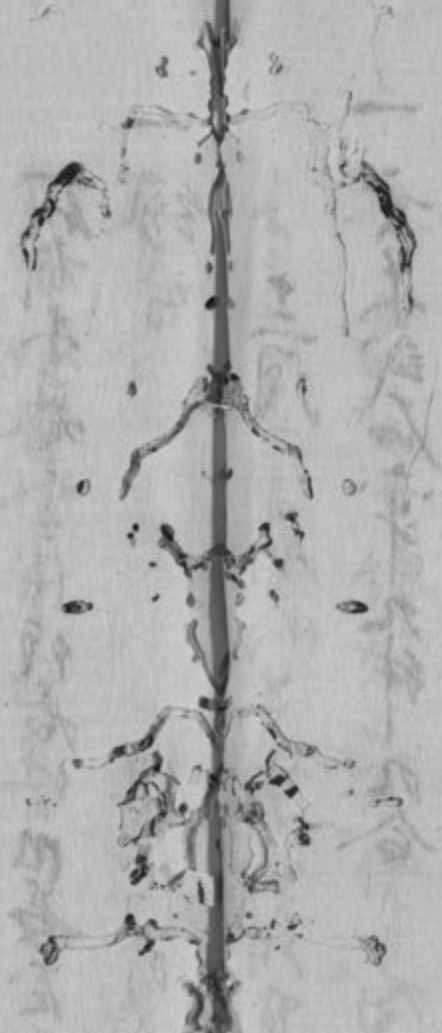
多紀永壽院

以書通多紀永壽院
 文作渡以事知任

辰三月十日

柳生重胎正
 又世丹後
 少及八
 久保也胎

矢野春
 長尾林也



多紀永壽院

醫學館役損則以修後以文 仰付以事以度

志以勘定奉行御目付以文後以

石橋津寺教以事以勘定以事以渡以
 石倉勝幸以事以相渡以

一 備中錄分制規表替拾五

一 環球之錄制規表替八

右者醫學館病人診察用之指針并湯吞用之者
一 綴八等入役身書向之綴指針一交之介表指
小場利也之綴指針一綴指針之綴指針之綴指針
小長古被登了皮

六月

永壽院

夫部夫之指針
小長古被登了皮

一 借中新規表指

但綴

但綴

一 綴指

但古綴指 一之相用

右者小島又之指針若此也長古也

一 綴指

但綴

右者長田八之指針若此也長古也右通也指針之表
醫并綴指針之表也

六月

醫學館出役

長田八之指針

小長古被登了皮

六月十日長古被登了皮

一 醫學館借事役後指針長古也指針之表綴指
指針之綴指針之綴指針之綴指針之綴指針
令之九斗七之綴指針及指針合也

六月

多紀永壽院

夫部夫之指針

小長古被登了皮

醫學館出役
長田八之指針
小長古被登了皮

以定令不足致也列候、神農將選人足白
抱并人足方新燒、良、以、為、不、思、先、達、
相、然、身、石、子、為、令、之、為、時、殘、令、有、之、
行、而、為、有、之、身、好、之、身、殘、令、有、之、
尾、皮、之、皆、然、也、全、以、殘、之、好、又、古、藏、淺、以、
前、殘、令、之、丸、掛、之、り、出、果、之、後、の、皆、
之、方、古、掛、今、明、年、之、内、之、古、藏、取、建、の、秋、
令、茂、出、來、致、也、之、り、也、之、り、也、
渴、省、略、致、の、り、殘、令、之、出、來、致、の、り、
有、之、り、也、之、り、也、之、り、也、之、り、也、
之、り、也、之、り、也、之、り、也、之、り、也、

多氣寺院

存津教員金品未、元十六日、内、藏、取、建、の、秋、
之、り、也、之、り、也、之、り、也、之、り、也、

醫學館地面、内、新、規、家、地、取、建、仕、換、帳

但、仕、換、書、之、元、帳、有、之、り、

右、式、請、願、之、り、

代、令、口、拾、之、り、

醫學館内家地、後、身、内、書

醫學館地面、内、家、地、取、建、
之、り、也、之、り、也、之、り、也、之、り、也、

水、俣、波、の、舟、仕、換、
之、り、也、之、り、也、之、り、也、之、り、也、

同日付上野院之上下戸付の事は此後申付候上

未二月

多紀永壽院

二月十六日長田公之平先生小野院御信札入書付

令廿拾五

長田公之平
御書之傍
長田公之平

令廿拾六

長田公之平
御書之傍
長田公之平

令廿拾七

長田公之平
御書之傍
長田公之平

令廿拾八

長田公之平
御書之傍
長田公之平

右通、此後以上

長田公之平
御書之傍
長田公之平

醫學館地内、此後以上

多紀永壽院

醫學館地内、此後以上

通、此後以上

不後、此後以上

合、此後以上

合、此後以上

未二月

多紀永壽院

未二月廿七日、此後以上

此後以上

此後以上

多紀永壽院

醫學館藥園隣境相鮮夫未久彼身新視仕也
 尸交并門到東側中酒之口武十八名於年之入彼
 以得息及大入藥單小諸荒一以身相鮮夫未
 仕也尸交并口到口身戶備堂厥收坪指一
 以身是又新規仕也尸交并依一以用為積以如
 相鮮夫未延入拾之同本戶收坪沢金近茲請自
 代金拾七或武令限八身之出未之積以所不且口
 及以掛合以上

三月

多紀永壽院

夫初夫之形夜

以書而通波而知其之知而普請小用也多時命
 夫後省略也世取守下法也以上
 三月

夫初夫之形
 小長若和果子

相鮮夫未并收坪也小被復及以掛合以上
 以所存之而普請用未多有以身相收波也以上
 積以所存之未未殘令以口文通於後相也以上
 殘令口拾也餘也以上身是又及以用為積以如

未三月

多紀永壽院

下札出首の執事取組及び...

夫が長太郎
小長谷和泉

四月三日借事役人全

醫學館比向の町東建の利親家此後三月十日より

五掛り取二日迄口数十二日迄出来仕止の向首以下

未月二日

長田十太郎
小暮又三郎

口以

醫學館家他小野東山と先並り口以

小野菊山

右於醫學館講書の作役の身役中醫學館比向

東建の家他先並り口以

四月二日

多紀永壽院

七月三日多紀永壽院先並り口以

醫學館役所向家根洋海小の方其外も原の付味

致の如惣作洋海字の身建取百二十坪余持り端

下二枚取通六枚の仕車一戸交り并凡例の割り口以

智積の文札の付如右式請負令口以各段式口以

武下ら出来積の積り口以

一 門前火の見の女まの取奉り普請の節百来々有来

ツ取附重の如く節の折腐り身役後相如く交り石代

令三分銀拾貳文八下と出来積の積り口以

のり定式出入用令のりて下付く日依之及以
掛合以上

未七月

多紀水書院

矢野素之富友

小長谷和泉子友

以書向執何...

七月

矢野素之富
小長谷和泉子

寛政五年七月毎日指津を敷布施養に連りて以て

成小舟多紀安長白の紙一通に合して中書并鈔書面

より書添付七箇口へ以て上流九月十日指津を敷

安長白の紙一通に合して中書并鈔書面

のり

矢野素之富
小長谷和泉子

書面のり中書并鈔書面

減りて復して是より中書并鈔書面

九月 多紀安長

野上信房の女中書面

多紀安長

野上信房の女中書面

野上信房の女中書面

野上信房の女中書面

及以掛合の旨下凡ち中少下有一以上
八月六日
小長谷和泉
夫和泉之弟

多紀安吉友

小野蘭山醫書館に由りて當時及び右の山家
他と建継波一山に別れ池備相然りて掛合
統波取知の石家他と波後相合の女有るは
南村の女と云ふは南村山は右の波は先
父の女と云ふは且樂字中繪園而通相備地
仰付ゆは先達と樂字は也。一節は檀小
相備地は身先又父交の女と云ふは右家他と建

継古藏の補理の事非常の節は又と相備有
田を山所はたを随分と根継波一古藏の館
方は建より石場はと此子館述する余は地は
小身先と陳と相成り波は右の石蘭山は南地
知言の者一と云ふは南地は和子一と相并は
事訓の石山地南内備相然りて又山助并
うま

多紀安長

八月
下凡ち統波取知併先達と及以掛合通其館述
相成りて非常の節は又と相備有

三坪余を以て修葺の備右家他は改建是七藏小倉
補理の身外に拾坪相増の合百貳拾三坪程の地面
家他を列張繪寫面通の備仕安有相敷の多に在る
依て東調の如く南小高宿仕の家他を造り角
合有る旨先達より多紀永壽院の社に之を記す
其と右家他は改建継古藏亦補理の旨不樂圓使
相成ののよ成甚學館進て大に非常の節に先
に以て宜樂草を盛し改の施いし事と地使相成の
必好事なりと勅并し之有る事と安長と掛合の如
右家他は改造の旨ありし事と當時の事と
小高宿の事と改の旨ありし事と且樂草の旨

繪寫面通の備仕て先達より樂草位也と云ふ節

尤禮小相増の旨ありし事と又先達より改の旨ありし事と右家他は改

継古藏の旨ありし事と古藏學館の旨ありし事と右場

小高宿の旨ありし事と尤地蔵の旨ありし事と改の旨ありし事と

右と右蘭の旨ありし事と改の旨ありし事と高地の旨ありし事と

相并の旨ありし事と改の旨ありし事と右地の旨ありし事と

改の旨ありし事と拾坪程の旨ありし事と改の旨ありし事と

安長より改の旨ありし事と改の旨ありし事と改の旨ありし事と

三拾坪程の旨ありし事と改の旨ありし事と改の旨ありし事と

可成の旨ありし事と改の旨ありし事と改の旨ありし事と

右と改の旨ありし事と改の旨ありし事と改の旨ありし事と

八月

十月六日

夫於夫之前
小長谷和果

醫學館俗事被改任者以長尾等一切損削紙
通表若并縁若被及相紙の口也、
只用令之口之取結了、
依之及相紙令之

十月

多紀安長

夫於夫之前
小長谷和果

書局之紙若被

夫於夫之前
小長谷和果

一 備中表縁付也

一 琉球表之縁也

右者長田公之章任右任以長尾等一切被任付書局
通表若并縁若被及相紙の口也、

未十月

長田公之章
本暮又之

醫學館俗事被改任者以長尾等一切損削紙
列紙書局、
令之内、
依之及相紙令之

本日の依う申す以下と

未月

医学館内

小人の好

増井三郎

未月廿二日福津を敬請する所以下に好意を有し和泉米と及勝威

の事

書面多記要長附送之件故
承知仕

未三月廿四

柳七主膳正
中川花守
三橋友成
小笠原三九郎
徳本三郎

夫の先中

小女古知本

書面多記要長附送之件故

作波

多紀要長

小野蘭山家他建是の依り以下當奉願書付 多紀要長

小野蘭山家他建是の依り以下當奉願書付 多紀要長

仕度次第は違ふが如くは然れども此の依り以下當奉願書付 多紀要長

仕度次第は違ふが如くは然れども此の依り以下當奉願書付 多紀要長

仕度次第は違ふが如くは然れども此の依り以下當奉願書付 多紀要長

仕度次第は違ふが如くは然れども此の依り以下當奉願書付 多紀要長

仕度次第は違ふが如くは然れども此の依り以下當奉願書付 多紀要長

仕度次第は違ふが如くは然れども此の依り以下當奉願書付 多紀要長

仕度次第は違ふが如くは然れども此の依り以下當奉願書付 多紀要長

此下並の仕度等以上

未九月

小野蘭山住居建足并古藏其外共仕候帳

多紀要長

但元帳に留る

一 令七拾八両貳分

申口春本可計日

大工治金帳

一 令八拾七両貳分

申口代々町計日

大工久保町

一 令九拾五両貳分

申口下町

大工吉田

一 令百五両貳分

申口下町裏町

大工吉田

石通入札に通し候

未九月

醫學部録集園地小方外園板津八町中

凡そ板津小方外園板津八町中板津

板津板津板津板津板津板津板津板津

板津板津板津板津板津板津板津板津

板津板津板津板津板津板津板津板津

て致す所の仕度及申合

未三月

多紀要長

申口下町

申口下町

申口下町

未三月

多紀要長

醫學館言周并門到續之屬下共

恩教信七卷

八卷裏込

三卷續替

一 借中表綴附也

但古綴不用分取替て

一 借中表裏流練 下疔安

七夜利規

門下門音訓

恩教六卷

一 流練表綴之也

四卷表替

門訓下働者動屋

恩教四卷

一 流練表綴也

武卷表替

右通指下牙表替并縁替

下牙表替并縁替

申

多巻表替

大教表替

小長岩和泉

書九

三月

大教表替

申 辛字四月十日未花致

先達より目録見直し醫學館に送付の

取建りて依りて依りて依りて依りて

安れりてりてりてりてりてりてりて

余方りてりてりてりてりてりてりて

下田志りてりてりてりてりてりてりて

七五或合余、有、小、舟、先、受、之、故、指、度、向、海、為、付、所、
作、之、魚、皮、の、り、は、布、人、の、為、致、重、益、好、多、取、掛、中、及、此、
付、列、紙、仕、積、帳、并、取、建、の、場、示、給、号、為、斗、以、建、中、也、也、
之、り、り、不、書、之、紙、同、書、及、全、之、り、り、好、の、紙、所、及、以、掛、合、
以、上、

申、四、月

多、紀、安、長

小、長、谷、和、泉、と、友、
崎、屋、源、八、郎、友

此、書、也、方、載、利、親、建、之、後、及、此、知、
得、者、之、り、り、因、致、重、益、好、多、取、掛、中、及、此、
仕、積、帳、の、り、り、不、書、之、紙、同、書、及、全、之、り、り、
好、の、紙、所、及、以、掛、合、
以、上、

申、四、月、廿、五、日、未、名、和、泉、と、友、源、八、郎、友、以、上、
日、源、八、郎、友、と

以、及、醫、學、館、に、七、藏、取、建、の、場、示、給、号、為、斗、以、建、中、也、也、
合、和、以、好、号、之、紙、同、書、及、全、之、り、り、好、の、紙、所、及、以、掛、合、
方、相、此、申、執、通、之、り、り、不、書、之、紙、同、書、及、全、之、り、り、
損、之、り、り、不、書、之、紙、同、書、及、全、之、り、り、好、の、紙、所、及、以、掛、合、
七、藏、取、建、の、場、示、給、号、為、斗、以、建、中、也、也、
以、上、以、上、

申、四、月

多、紀、安、長

小、長、谷、和、泉、と、友、
崎、屋、源、八、郎、友

宣和月廿七日 楊津 敬以...

醫學館長 吉藏 敬啟

多紀 長

醫學館長 吉藏 敬啟... 宣和月廿七日... 敬啟者...

申 宣和月

多紀 長

宣和月廿九日

醫學館長 吉藏 敬啟... 宣和月廿九日...

醫師 吉藏 敬啟... 宣和月廿九日... 敬啟者...

申 宣和月

多紀 長

小長 吉藏 敬啟... 宣和月廿九日...

此書由... 宣和月廿九日...

一流球表之縁

本島又之流位右田長石

惣数八五〇
新規表替之申

一 備中表

惣数拾三申
新規表替格申
古表裏込一三申

一 流球表之縁

惣数三
新規式申表替

右通申切損申定式申用令申
表替申書込
致交申上石長石流位申
申付申好申依之及申
申合
申

申
申
申

多紀女長

長谷和泉
申



小長谷和泉
申

申
申
申

醫書館請書前比志
申
申
申

側申西側申折申
長延拾申
申
申

古石申石垣致申側申
申
申
申

致申
申
申
申

次見申
申
申
申

為積申令之為根指申
申
申
申

定式申用令申
申
申
申

申
申
申

多紀女長

小長谷和泉子度
野原源八郎度

此書面石通志...
小長谷和泉子
野原源八郎

醫國學館復刊...
一 備中表

一 備中表

俗東後由教...
新規表者八...

一 門

世信後...
表者八...

一 門

病入診系列

一 門

病入診系列
教者...

一 門

病入診系列
教者...

一 門

右之通損...
果僅...
多紙安長

多紀永壽院何尸上諸
掛合并以醫師云仰波

小長谷和泉子友
略全陳八年友

山書月表君侯好家世心
三月
小長谷和泉子
略全陳八年

多紀廣壽院
同宮諸君
中川勘三郎

以度世者之醫學館掛云 作付の身方は方成完初
紀立之法并 是用事令刻有 小巨端 相徳
以依何相許 小身 達次之

六月十六日

多紀廣壽院

同宮諸君
中川勘三郎

醫學館掛支配 者中波の別 孤名而先述 小日付
大日人 託目付 小日人 目付 子 織 束 生 出 付 小 世 祐 後
者 必 殘 不 出 名 甲 波 一 有 心 依 中 達 次 之

六月十七日

多紀廣壽院

同宮諸君
中川勘三郎

別紙

日記目録

秋中後十市

山中夜右抄

日記目録

山中夜右抄

山中夜右抄

山中夜右抄

費人

拾致餘論
三同方

秋浦玄徳

外中
二七 靈福

福井玄物

素門
病源後論

多紀安長

外中
本草綱目

田村元長

兒
傷寒論
本草方

吉田俊庵

令遺要略
六十
千金方

山本崇英

紙道之仰波の如くして其の如く製薬の用は
付別移り今日も此の如く

九月十二日

此の如く相留候と相止りし中藥の相留丁
文作波の如くして其の如く

九月十二日

此の如く相留候と相止りし中藥の相留丁

成和紙道之仰波の如くして其の如く

九月十二日

多紀廣壽院

中川勘三郎
同文作波の如く

信事役者勘定向諸相持帳面共此度新役者
の如く波の如くして其の如く

十月六日

十月十日書付

小寺忠運

醫國書館 抄の如くして其の如く
取立を以て候うと波の如くして其の如く
右通一渡の如くして其の如く

十月

火事以前に書わし、以藥種をた選り、火事以後思辨方々
醫學館に相成り、急にお成り、以相成り、以相成り、以相成り、
と、以相成り、以相成り、以相成り、

但町人より、以相成り、以相成り、以相成り、以相成り、
其之、以相成り、以相成り、以相成り、以相成り、

石及以相成り、以相成り、以相成り、以相成り、

十月

多紀廣壽院

附記

以書、以書、以書、以書、
中川勘三郎

七月十日、以書、以書、以書、以書、

書、以書、以書、以書、
是、以書、以書、以書、

七月八日

多紀廣壽院

醫學館に、以書、以書、以書、以書、
以書、以書、以書、以書、
種、以書、以書、以書、以書、
以書、以書、以書、以書、
以書、以書、以書、以書、
以書、以書、以書、以書、
以書、以書、以書、以書、
以書、以書、以書、以書、

毛交多形... 經等... 子... 國... 丸... 相
 成... 子... 又... 是... 者... 身... 持... 而... 之... 用... 多... 少... 出... 身... 子... 果...
 以... 子... 之... 子... 無... 禮... 成... 品... 有... 子... 子... 國... 重... 子... 子... 子...
 急... 用... 年... 子... 且... 凡... 後... 病... 化... 依... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 用... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 藥... 禮... 化... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 國... 重... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 子... 多... 入... 用... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 依... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 執... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...

三月

常用... 品... 老... 相... 成... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 殘... 有... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 取... 立... 初... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...

多紀廣壽院

正月... 日... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...

書... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...
 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子... 子...

向宮諸君

醫學子館以藥種名交の身石以子尚令以併為友分
以下之儀多紀廣壽院相臥書面一覽仕信學館之病
康治之儀、去子奉九月八相初の身有九月八之儀、
代令相臥請去て一昔以并之儀、完初之儀有、
以藥種相採、一方安、二身好、三初廣壽院中
上の執、四名以、五前備、六海、七身以、八用相坊、九前、
之、十其、十一上、十二心、十三度、十四以、十五下、十六令、十七有、十八之、十九以、二十身、二十一好、二十二之、二十三廣
實入以藥種、二十四后、二十五中、二十六以、二十七海、二十八之、二十九利、三十之、三十一之、三十二身、三十三好、三十四之、三十五廣
壽院相臥、三十六之、三十七為、三十八友、三十九分、四十令、四十一也、四十二拾、四十三為、四十四以、四十五下、四十六令、四十七之、四十八下、四十九儀、五十
身好、五十一之、五十二右、五十三通、五十四相、五十五成、五十六の、五十七上、五十八以、五十九奉、六十之、六十一以、六十二急、六十三交、六十四取、六十五瓦、六十六為、六十七初、六十八之、
茂、六十九中、七十該、七十一儀、七十二七、七十三紅、七十四刺、七十五廣、七十六壽、七十七院、七十八身、七十九上、八十之、八十一書、八十二面、八十三之、八十四通、八十五并、八十六及、八十七上、八十八の、
以、八十九限、九十之、九十一上、九十二の、九十三以、九十四之、九十五の、九十六の、九十七の、九十八の、九十九の、一百の、

三月 簡宮諸在場

右書物勘之事依遠國御用身証紙使一名之、
建之書文、一口、二返、三事、四事、五也、

醫學子館以藥種名交の身石以子尚令以併為友分
分也拾、一交、二の、三身、四下、五之、六以、七名、八拾、九津、十の、十一敬、十二取、十三仰、十四汲、十五の、十六を、十七以、十八奉、十九瓦、
之、二十女、二十一の、二十二身、二十三の、二十四口、二十五度、二十六請、二十七取、二十八の、二十九女、三十能、三十一く、三十二該、三十三の、三十四身、三十五拾、三十六者、三十七の、三十八書、三十九仰、
汲、四十の、四十一儀、四十二之、四十三以、四十四建、四十五之、四十六上、四十七の、四十八以、四十九之、

四月八日 中川勘三郎 別室証紙使

多紀廣壽院及

出火之儀、醫學子館に証紙人、是、一女、二去、三子、四奉、五上、六月、七及、八月、九合

如所人足方之統方之仰多小身其工月々高四月迷町
人足之相抱し依之為奉し之去奉し通延対人足
之之中身之好以奉し奉し石通相之得てし小以
候以掛合し小以と

二月

多紀永壽院

大正帝醫學館に掛合
し女以奉し書面通延候し
久支し女以
二月
中川勲三郎
弓矢信太郎

寅月獨津子致し小門九百以下

一 新本草學研究仕度好し好し本草學為見男相
候し男中合し醫學館以藥園修補相候有奉し本草

本利更し仕し植足し仕見貴之社交其創以し

寄合し醫師

井関祐悦

園本玄周

芳谷玄梁

木村元長

堀田忠榮

河野良久

吉田元金

曲重胤心隆

村田素房

振津也殿 庚子七月朔日

多紀永壽院

奥田醫師

桂川南周

醫學館に於ては、此出家業、又外科に医師共相後
互立せり、而して其後、多紀永壽院にて其後、

石之通中、波のりて、其後、

卯二月廿二日、振津也殿、市の南、山の下、御門に入、此上、

和旦

多紀永壽院
石之通中
波のりて

振津也

奥田醫師
二月廿二日
中川勘三郎
多紀永壽院

野呂元忠

醫學館に於ては、此出家業、又外科に医師共相後
互立せり、而して其後、多紀永壽院にて其後、

奥田醫師

山本揚卷

奥田寄合の医師

由志津正隆

醫學館に於ては、此出家業、又外科に医師共相後
互立せり、而して其後、多紀永壽院にて其後、

石之通中、波のりて、其後、

卯二月廿二日、振津也殿、市の南、山の下、御門に入、此上、

奥田醫師

山本揚卷

和旦一

去於火補
傷亦与
出雲与

橋津与

石川与

中波の書付

正月廿二日

奇合の医師
野与書隊

醫學出情の軌達

御座候事と有以沙治候

心と出候候之致

右給以右筆の瓦縁類對与中波の列候事若奉

事申付候

床女正及候

和旦一

去於火補
傷亦与
出雲与

橋津与

石川与

小普請組支配

進友九系支配

小村玄長

武田与支配

塩田宗孝

阿部与支配

岡古秀徳

醫學出情一版之事、心出候候之致、以床小普請合、

名出候及

進友九系支配

道榮輝

源田道周

以下ケル勅定則トシテ来ル取付トス

夫於此中
小長吉能也

勅定書
多紀米書院
波書付

多紀米書院

醫書館下藥種料令百あり然近ノ病人相坊ハ
舟ハ足ニ申シテ下依ニ取ニ適當奉ル令百あり
坊者ハ以テ来リ定テ極重ニ以テ後病人相坊ハ以
令百あり取斗テ以テハ心ニ勅定書付テ下後ハ

勅定書付

口文云

石通多紀米書院ハ波ノ方ニ取テ

辰月廿八日勅定 以藥種代相坊令

一令百あり

令貳拾貳式令限拾之九ト八重

石者有卯奉足除藥種代長湯源在馬相波

令三拾八式令限六之八ト六重

石者有卯奉殘令并尚奉分藥店相拂

令三拾六式令限七之七ト一重

石者以補定式以入用令之方ハ以令以併相成

令一令九拾六式令限七之七ト一重

名門殘

命三由浪之九下之重

石通 以所の以と

及十月

己正月七日迄

京都医師

比田瑞任

山田徳吉
中書又之信

右者講書 仰付の身昨十日醫學館に在り

中山町某の村に此後組に公留里権八郎先承の
に在りしに順一と云ふに

正月

山田徳吉
中書又之信

福澤の故に永壽院の由書而公に在り

京都醫師

右瑞任が昨十日於醫學館に於て後述の如く

科に小兒科の首座の位に戴き又傳承痘瘡

科の是れ別獨之禪師の位に傳承の如く

傳承一家の學子と云ふ口授の如く

痘瘡の書成りしより長於短しに傳承の如く

書成り武拾の如く書成り中々撰九の一家の流傳

るを以て其の如く編 痘料選りて取法治

知公法より九の事より申す少く石の如く痘科

選り傳書のははり又今讀のははり甘好今讀

方印の... 元禄文書にて... 元禄文書にて...
P. 100

二月十七日

多紀永壽院

二月九日梅前寺放生書院の文作後

是近聖堂有... 神農醫書館... 元禄... 永壽院

俗事後孫石堂の文書

一 神農の象... 成永... 當時品平坂... 門移...

... 其節... 門板... 門事... 門合... 文書

... 門付元... 門事... 門合... 門事... 門事

... 門斗... 門事... 門事... 門事... 門事

神農象元来雜用... 門事... 門事... 門事... 門事

... 列堂... 文移... 元禄... 文書... 門事

... 元禄... 文書... 門事... 門事... 門事

... 元禄... 文書... 門事... 門事... 門事

... 石通... 門事... 門事... 門事... 門事

二月

林又孝子頭

元禄... 文書... 門事... 門事... 門事

多紀永壽院

... 聖堂... 神農... 醫書館... 文書... 門事

... 相洲... 門事... 門事... 門事... 門事

院日身武人以小人身身武人為以人添出被仕以日身
日身波以下以品仕以交以好以以以

二月

多紀永壽院

二月廿八日記

一 今廿八日重堂人神農遷所有石迎并出後乃一

通以長以記

一 醫藥子館掛以院日身益山勝藏口以小人身身細
野以次以當番方以止以被以院日身以取以本以六以五以門
小人身身以祥以小以幸以言

一 神農為以院日身益山勝藏口以小人身身細
與以者以武人以并以持人以是以拾以之以連以在以鐵以下以堂

多紀永壽院
院日身

石門附添名八半時以近所相濟以

二月九日移津寺殿永壽院以院日身益山勝藏口以小人身身細

多紀永壽院
院日身

右邊田中為以院日身益山勝藏口以小人身身細
拾以之以五以積以月以刻以中以之以下以其以所以之以中以所以波以小以在
以以勘以定以其以所以之以中以所以波以小以在

三月六日

院日身

右者合以醫以師以之以仰以分以制以親以武以百以儀以之以下以重以小以身
於以右以筆以於以庭以鐵以類以保以更以之以殿以之以仰以波以小以在

一 醫學館 以藥臥起病人能治之方是近世之形
 以遠方或先行示能相成病人能之軌出此事付
 以席以病人氣力能治之事付以年而夜茂
 以藥以下方相成以能治之軌病人能治者
 以治之合以藥臥起之事
 右志是遠之方及之膝藏之杖菴友
 杖乃友長友及右之相成之右通相成

己八月廿二日

柳澤忠政 己八月廿二日進達世話役男子大出席

先是進通相成之事
 手取知也
 十月九日
 多紀廣壽院

是進世話役於醫學館講釈仕目多務
 医師之混雜不仕以海堂友協又之側也
 有之病之他少為法以來之石通能少之仕
 下之苦少友少之仕也

十月

住居之儀同書

多紀廣壽院

先是進通相成之事
 手取知也
 十月九日
 多紀廣壽院

私住居之醫學館取建小舟子遠之仕於右以
 醫學館比有之仕定仕友取之軌通住宅
 仕友安永二己年六月水野平友之散仕作波只今

以醫學館地有子七百五拾肆余石口百廿余場不
社安長位右位以退以改定以所不事以所不
知如何下位以所不事以所不

十月

多記廣壽院

醫學館分會得同書

先是通相公... 十月九日 多記廣壽院

一 醫學館地有... 完初之... 醫學館取建... 年亡之...
病死... 通相公... 十月

以改定... 元... 備地... 當... 相公...

一 醫學館口與園中植有... 藥草... 出席...

者... 為見... 藥園中... 藥草... 通相公...

力... 從... 藥草... 通相公... 藥草... 藥草...

定... 後... 藥草... 藥草... 藥草... 藥草...

一 醫學館... 藥草... 藥草... 藥草... 藥草...

百十之明和四年八月帝燒矢仕の身安永二年
 再建^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 出の寄附^後は是^後に再建^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 改定^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 一當時法中法暇寄合小普請等也醫師^後指示
 之世活役相^後の役別 予の勝手は九月之内二年
 △奉旨の内教育真の仕の身入用之に重^後
 之甚角手之極小危掛^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 重^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 定^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 右通相公の^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 者^後の節云 御出の御存の諸医師を免

十月

免就廣壽院

十月九日
檢書
附札

此の上の^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 通相公の^後の節云 御出の御存の諸医師を免

口

是又^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 及^後の節云 御出の御存の諸医師を免

口

右^後の節云 御出の御存の諸医師を免
 自分^後の節云 御出の御存の諸医師を免

此の^後の節云 御出の御存の諸医師を免

是^後の節云 御出の御存の諸医師を免

十月九日 免就廣壽院

醫學子館門本通り并山裏通りを九月迄合く
私為借地に女牙并通道半分の醫學子館掛り
相公將向側半分町方掛り相公の住居に改定
以後も山用瓦敷向側半分有る事好む醫學
館掛路の外町方掛り隣家隣家境に
是又西邊の外隣家掛り相公の住居に改定
千代に凡の町方掛り山普請事好む石相公
得る事好む山達り重忠仕立事好む以上

十月

多紀廣壽院

醫學子館樂道園夫来山以終後省略残令出
年徳の牙先達り徳樂後々山諸道員不調に度

未幾有り山牙世業館門番人并中より看取事
之より相重り交の仕候事如き事綿思深く此門
元色を武列紙通中附重り交の思召り之より
右條令り申して付好む依り及山掛合候事
乙十月

多紀廣壽院

夫形在り及

小長谷積登り辰

醫學

子館

山書向り紙并列紙合中
不交り波取候事
乙十月
夫形在り及
小長谷積登り辰

脊之下

前之方ありて

醫

覺

石通本綿着板口より白く深き一皮以下

二十

多紀廣書院

醫學館表通一冊未だ門底根着替并樂終
後一式積令言の減一殘令此所の手役不可
詠道身多化重一皮有先達之相伺知得通水
作分の手別及通相調り

減残令言の減一殘令此所の手役不可

内

令二分式糸

又用第筒そ

令二分根太女

白小長柄を伴
但持り

根二分

長持根縫

令二分

蠟着板口

令二分あを合根そ女口方一重

糸着板口

内 綿 着板口
小綿 着板口

令二分あを合根拾口女口方一重

糸着板口

令二分あを合根そ女口方一重

石残令之而下股之身下令残令之
以病也人用之方也組述之
常言也劫之收有之

二月

費

長田
小書之

一 深川西平野町

醫學館附
町居

七ヶ所

右者之廿二日神田代又馬町
付心腹也

二月十九日

長田
小書

醫學館樂家書除代令
女完初

積之上重ぬ
牙先達
是述通
只今述
多生
白後
症
草
川
以
心

出戸交好の及以所及以掛合の以

十月

多紀永壽院

矢部元吉申取

小長谷能也申取

以書而醫國學館樂寧堂申取掃除入用奉令高
口口或也山系種代令口口口口口口口口口口
合口口口口口口口口口口口口口口口口口口口口
代口口口口口口口口口口口口口口口口口口口口

十月

矢部元吉申取
小長谷能也申取

右十月廿二日下ヶヶ札書送接抄

乙未十月朔日田田指簿申取文印渡

小石川山樂園の製山樂種の自卷生示下ヶヶ

小石川請取療治相用為山醫師口口口口口口口口口口

後多紀永壽院口口口口口口口口口口口口口口口口

是日九門友川小野寺口口口口口口口口口口口口

石通町口口口口口口口口口口口口口口口口口口

一 卷生所出役山醫師

井上玄丹
村是玄紀

西 玄哲

村小長重

眼 益永養泉

石之者上書而之田樂下小年

寛政十年年二月廿日

一 小石川田樂園之製田樂禮之卷中則出後
田醫師田下之相成小者請取療治之仕多先達
之文作渡小流以石田樂院田醫師之人名式拾
之外之積之醫學館請九相渡下之音作田樂
何通文作渡小月流取並昨日相渡中流乞
以奉九年之於醫學館相渡多之相成小者
田下知並下小者以之

田下 藤田庭雲
見名 小川文也

二月廿二日

多紀永壽院

夫於夫之角友
小長谷能登与友

醫學館附町屋敷之文

先達田神農像持除之人是場人後手也推

田月分口下該名田下少小月別相渡之被下下

一 醫學館附町屋敷之河町小石川
田川三子
之納之高完初下年令也拾也積之田下小者
之河町之毛下奉令之拾也定之相納小者小石川
田川為訓也場末之田下小者田下多之田下
川西下河町之毛下已奉上月新燒仕納之相成

川文及西
源田庭雲

石者上書也
田樂下
寬政十年

二月廿日

一 小石川田樂園之製田樂禮也
卷中則出後
田醫師也
相成也
請取療治之
仕方先達
之文
相成也
石田樂禮田醫師
七人分式拾
之引
積之醫書館請九相成也
有年
同通文作波
身後取也
相成也
以來九年
於醫學館
相成也
相成也
相成也

二月廿日

多紀永壽院

夫於夫之自友

小長谷積登也友

多紀永壽院

小書分

先達田樂園持除
田人足場人
後也
相成也

田月分
後也
相成也

一 醫學館田附町
在也
之河町
小石川
田川

之納
高完
初也
年令也
拾也
積也
田川也

之河町
也
年令也
拾也
相成也
小石川

田川也
訓也
場也
田川也
田川也
田川也

川西也
田川也
年令也
拾也
相成也

且町方七方へ出張并町へ用多しお掛り
月増減世々切赤小石川津川西別々七ヶ年
凡令白武方夜々相絶し赤丸切々前書積言
奉令白武方夜々相絶し赤丸切々前書積言
西平津町武方所へ替て申状は切々相絶し赤丸
見立の文子も取て申状は切々相絶し赤丸
下平津丸之申状は切々相絶し赤丸
申状は切々相絶し赤丸切赤丸切赤丸切赤丸
為念と文と宛初申積言と口へ抱重并有
申人足指丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸
赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸
赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸

申状は切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸
申状は切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸
申状は切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸
申状は切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸

年三月

寛政十年年二月十日給指授し赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸

小田書付

多紀水青院

千田吉智

小田吉智

醫術學館 相話多紀安長少中兵衛吉田使乃通
下之物依之申状持方給赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸
石書句四月七日旅登り及八日申状持方給赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸切赤丸

田番医師

石室知代致醫學館世祐後

子田玄知

女以月番以光中方并

御古九若奉号元

不殘名致十元世祐後子傳

御子前

以掛若奉号元斗子致十元見合為重

年四月十日

山中次八

矢村繁

先達以御令中於醫學館致醫學素演指南

後以通相格

吾合以致醫師

女波實

口以

森雲南

小普請組

新川長門支院

福井益進

真以醫師

枝卷實子

吉田榮卷

真以醫師

宗運卷子

山崎宗徳

真以醫師

張玄實子

古田泰玄

四番醫師

卜卷冥子

北伏九伯

安貞冥子

北多村安正

小普請組

定賢冥子

道而冥子

子領道榮

八人支配

白仁養子

吉田白珠

右通句讀相授小舟中上迄并人兼讀相授小舟中

川邊小舟中

牛小月

多能水書院

矢野長正命友

小長谷能登子友

醫書素讀指南四割

小澤忠徳

子領道榮

吉田榮卷

吉田榮玄

一六

二七

六 兒 五

古波寬卷
枕枕九伯
衣多村安正
存雲南
福井各進
石田白珠

素讀書物

素問
靈樞
金匱要略十卷經

純經
奔搏

傷寒論
大成論

類

右ノ外傳書一

口書

六經類一

右ノ通ノ内府以上

年六月

六月廿四日

一 子田玄知年廿七日ノ令遺要略二七日講釈已
上列ノ相持ノ外

一 醫學館世話後山醫師治洲暑氣切風後也

凌兼外府ノ方話通ノ志志所明ノ外
思合ノ内府ノ一ノ付ノ心脈及内掛合ノ

以上

六月

多氣壽院

矢部彦平版
小長谷能登也版

小書局掛合通好者
六月
矢部彦平
小長谷能登也

以及診醫學館送書素讀相始小牙技指南小書
以補甲或人之先出中少以所建少且又出後以
少自付日補先出少及去年中及掛合小別
所出技持方少及之執少以所不執和以能
目付支度之及者之凌少た先出少相成少
以之自付日補少身者之凌少相成少補

先出少及之思名茂少今及及以掛
合少と

六月

多紀兼壽院

診醫學館素讀相始小牙技指南小書
以補甲或人之先出中少以所建少且又出後以
少自付日補先出少及去年中及掛合小別
所出技持方少及之執少以所不執和以能
目付支度之及者之凌少た先出少相成少
以之自付日補少身者之凌少相成少補

六月

矢部彦平
小長谷能登也

石書内武通後登也及中下二歲十ヶ孔波一二月朔日十
六市上相波

伏羲神農黃帝二尊之醫家之祖多度土上之傳
家之學校孔廟有之始之醫家之學校三皇廟
以建至孔廟始之釋真成行之事以成之
如醫館講堂也以前人神農像并伏羲
黃帝之神主歷代名醫之木解之有之且去已
年人講堂神農像安也 仰出山内山
列之也已市人等堂之一年釋真之行也
山内山内之何年以來醫館之釋真之
行也 仰出山内山内之何年以來醫館之釋真之
真之也 明流之會由是相見也 仰出山内山内
大壯成之也 仰出山内山内之何年以來醫館之釋真之
行也 仰出山内山内之何年以來醫館之釋真之
宛奇約為之相也 仰出山内山内之何年以來醫館之釋真之
奉願也 仰出山内山内之何年以來醫館之釋真之

六月

多紀永壽院

矢部元之申

小長谷能登也

石臥書病津也教以先度也成以先也之也醫師
一合釋真行也成也也

我即西樂元元

右者迄及能醫學館簿書之任方一昨二日有洋子放火
作波の舟以取川達の

六月四日

矢部夫之平
小長右衛門

多氣永壽院

六月十日

醫學館神農像非常の持除の節油筆并
托灯の改附の及取の書付

多氣永壽院

去年有堂の醫學館に近所有の神農像水
常の御持除の節油筆之取付の及取の書付
附は御座り及取の及取の書付

是又持除の節油筆之取付の及取の書付
是又持除の節油筆之取付の及取の書付

多氣永壽院

六月

右書付持除の節油筆之取付の及取の書付
持除の節油筆之取付の及取の書付
去年有堂の醫學館に近所有の神農像
常の御持除の節油筆之取付の及取の書付
并に改附の節油筆之取付の及取の書付
取知度迄及取の及取の書付

六月十日

小長右衛門
矢部夫之平

右者迄及能医學館簿書之任一昨二日有付了故火
押渡の舟以取川達の

六月四日

矢部夫之市
小長谷能登子屋

多紀永壽院

神農

六月十三日

醫學館神農像
托灯以改附の父年取の書付
去已年有堂の醫學館の近所有の神農像水
常の御持除の常油筆之の所の花包緒の御致
附の是附重の度の好の所の用の定武以補料

多紀永壽院

由の公名出の給の法且又言海以改附以托打武海
是又持除の為用意以下の事本仕交の好の所の以
取年取の次の

六月

多紀永壽院

右書包持付了故長谷川津屋の所の以下の書付
林大學以の向合の人老の書包の通の
去已年有堂の醫學館の近所有の神農像
有堂の有の御持除の常油筆
并以改附了海托灯亦以用の以の取扱方書渡
取知度以取及以向合の次の

六月十日

小長谷能登子
矢部夫之市

林久世書

神農像昌平山府前常持除之如改附油
等口以之法拖灯用いひひひ有以可谷波取智
昌平改くく取扱之地油等相用いひひ改附
用いひひ取扱之地油等相用いひひ改附
いひひ改附之石等取像山厨子く前之いひひ
像く通有方自分改附之いひひ元来神農像
像等取像いひひ取扱之地油等相用いひひ改附
仕来り外打退く席持出くいひひ改合九取扱方原
之いひひ改附之いひひ改合九取扱方原

林久世書

矢部彦太郎

小長谷徳登

乃書由七月廿八日徳登く取扱之地油等相用いひひ改附
相成り石いひひ改合九取扱方原

去己年取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附
取扱く取扱之地油等相用いひひ改附

此燈の法附言燈托灯二法相用之餘と近所
方自分致附相用の有材大學院の少の石付相考
知可堂の神農像取扱のいゝ意味と遠く醫
道に引之と云々相言々諸医法に相増あり出
情と勵して相成材非常と前夜中に列の混雜
此の女其上番付醫局館の女被引と誰の湯
九の道具於以飲ケ完下小仕重のいゝ法と遠くは後
牙御致附言法に托灯二法請取相用此の作
汲の法外相傳のいゝ女と有の度る女と云々
花色納油茶と女との法附言と方御と云々
好のいゝ地と油茶醫局館附以相令と云々
出相用のいゝ女と膳と次方の女と御法と云々
好のいゝ女と後引評法はのいゝ書と通の法則
此のいゝ女と書と通と法と云々

七月

夫が女と云
小長谷和泉

書物から通接押子の法

七月二日

此押子の法

此押子の法

此押子の法

此押子の法

上米... 代料... 醫學館... 師... 請持... 施樂... 下... 丁... 以...

示

多紀要長

寄合醫師

安貞養子

湯川安道

石道目文 作付

石安貞代為分安道小普請組游川長門也

支配文 作付

七月四日

八月四日

以番医師

淑非若秋以醫師

人見言榮

石山 仰付

八月十日

山藥元色

石山御白書院山次山色縁初

又 仰付

八月廿九日

陰菴取来の山切

為院右料

石山通院后

仰付

八月廿四日

京都医師

秋田業元

御目見

徳宗仙院

門降菴

仰付三相違

醫學館神農像琳帶帝持邊為用云油

第并山紋附山挑灯

是通通云地江御紋附山挑灯

出請取の

山原山知重

山用令

及山掛合

八月

多就米書院

矢部貴之助

小長谷和泉

山書御紋附山挑灯

河内府洋子校長吉川清重の公印下ケ取附出印和菓書返上

女波取知并油菜桐油
才定式也用合一
出来の女好
千八月
夫於六
小長台和菓

書由真醫師
種々書稿共他院多紀永春
院取付通文作波
書由長清表
方文作波取知
千八月和菓
中川花

夫於六
小長台和菓

書由通文作波
七月廿日

除稟種之文付和菓書

德宗仙院
多紀永春院

真以醫師
六拾五ノ御
女ノ中道小兒科
下重
度ノ打
武拾
向

門取... 仲... 春中西九御... 間... 由... 新... 市... 一... 之... 半... 供... 小...

學館... 除... 於... 神... 七月... 檜... 多...

醫學館... 多...

去... 神... 多...

且人足有第一於燒作前之於燒之者古斗之令
令其為之也子為第一官為先達之相於公府以下
令之於列紙之尤為美中其於於於於於於於於於於
品之伴波之舟別相後法如之在奉醫學子館
以普法之劫年化略之法有少少舟移之劫年相照
以於於一伴小石川深川而而之地代令之奉令令
拾而積之相於於於於於於於於於於於於於於於於
入用亦相掛之舟是奉也之為實相於於於於於於於
之於於於於於於於於於於於於於於於於於於於於
以定令之是法右後以於於於於於於於於於於於
子為近之於於於於於於於於於於於於於於於於於

火之節人之是也於於於於於於於於於於於於於於
以於於於於於於於於於於於於於於於於於於於於
此名是也於於於於於於於於於於於於於於於於於
委使小山之町屋敷回口之於於於於於於於於於於
之人守之場所相於於於於於於於於於於於於於於
川深川而而之町屋敷之町門智之於於於於於於
舟於於於於於於於於於於於於於於於於於於於於
舟於於於於於於於於於於於於於於於於於於於於
於於於於於於於於於於於於於於於於於於於於
て於於於於於於於於於於於於於於於於於於於於

品仕交年朝海列紙纏固月廿日
年十月
多紀永壽院

矢形天女
小長谷梨

町屋敷門替朝... 定式入用... 三月十八日

神農像持除... 多紀永壽院

神農像持除... 人足坊人...

一 非常... 惟而持除... 去已年... 板代...

年二月

多紀永壽院

孫津子殿

小長谷和泉子

多紀永壽院元上書面武通并給回由以下

一説は知去已年市賣人医学館に近所有る

神農像那常衣持除乃子為欠附人其之令

之介別取之抱並了交方石人其之

如子認く完う控並欠附の儀万石新燒仕の節

燒者日斗りそ令武あり以下為令

是達永壽院為相取の儀多々及奉醫學館

普請節格列以下令有る以下定令

之勤辨仕取扱の儀私大々該並の身種之勤并

相取の儀一併醫學館附町及安河川小石川

為所之地代令上り言是々奉拾為積

為宗明地々以下町入用多相掛の身

口之友了相納の身奉小長谷和泉子の勤并仕

之儀本書人其子為出奉弟志其支小身種之

走仕の儀之知以長草日新町培為橋渡之真中

表使小山より町庭及方之地代令相懸上り

書面一之儀多紀永壽院
取附通之仰渡の儀知仕

矣於廣之節
小長谷和泉子

川原乃深川小石川為市町在邊石山山
 町是邊川町若米山町之欠附令其子為令
 年之介少時用有之令其子令其子
 其流用仕以令其子町在邊川町若米
 川乃深川乃評候仕以令其子為令其子
 小是仕以令其子被後亦或時入用其
 小知勤年仕兼以令其子令相執品之相成實之餘
 交相少之上作年小是仕以令其子為令其子
 永壽院町通町在邊川町若米山町之欠附令其子為令其子
 好山石山交以令其子為令其子為令其子
 條附用之令其子被後亦或時入用其
 十重有之川原乃深川小石川為市町在邊石山山
 十歲書也武通并繪圖也上仕以令其子

十月

夫於其之
 小長谷和泉子

年十月十四日

以書也之此多紀永壽院町若米
 小知其交之令其子為令其子為令其子
 十月
 夫於其之
 小長谷和泉子

生年接板

中川花洋也

世者文就其村野之茶品是近村方多早年者

多適藥品之好知者江戸藥店に送りし後其下
 在買取の丸採履の事諸夫脚に以合ひしは村
 小野に之薬品出の者一ははる百姓の農業に
 成り丁相成ふに所於に且當時藥種も在
 市藥用之品ありて之を以て然るを好
 小舟追て取調え高の半度多村方へ石品採取
 醫家と相渡藥用の成り一併製法を以て之は
 氣味厚く用立の品なりと申す者下有る者あり
 小舟先此良可及之採取を介指の成りて為
 採取の者追て採りて上村へ之を廣く採取代
 後調へ醫學館に相送り醫學館に藥種同入
 孔取の品と申す取地に此代役別と通達有るは
 之代役別は取取替村方と相渡藥種を申す
 醫家と醫學館と相渡一は医家申す所を
 藥種同入と相渡石代銀を七月三月武吉買
 丸の者給くは之代役別と相納りて村方と為
 之取の品利也此の丸の成り相成醫家と
 藥店と買と申す下申す買取の事丸双方と為
 之一件廣く取取相成りて人論り相成り
 女身方石と通丸中品成度好丸なりと醫學館
 ありて先之前より之を以て丸と申すは
 江戸に丸と採取の事種々追て醫學館に

早... 海... 山... 及... 山... 合... 以上

年十月

中川花澤子掛合書由古添達

別紙一通中川花澤子掛合有... 於醫書館免

文... 札... 以上

十月十二日

夫... 小長古和泉

多紀永壽院友

別紙中川花澤子掛合書由... 以上

... 札... 以上

十月十四日

多紀永壽院

夫... 小長古和泉

小長古和泉

下札

書... 多紀永壽院

伊豆子殿

年十月廿六日長古川... 以上

書... 以上

先... 以上

の仕込... 中川花澤子

十月廿二日

中川花澤子

夫... 中川花澤子

支配村野... 中川花澤子... 採製... 藥品... 採製... 藥品... 採製... 藥品...

用... 採製... 藥品... 採製... 藥品... 採製... 藥品... 採製... 藥品... 採製... 藥品...

一 半度可武拾二貫七百七拾目

五行数九六百七行余

但右のり

一 若年武貫貳百目

五行数九八行余

但右のり

一 米朝毛貫百二拾目

五行数九四行余

但右のり

一 大戦小貫百六拾目

五行数九二拾七行余

但右のり

一 番所子九百二拾目

五行数九二行余

但右のり

一 養永三貫貳百拾目

五行数九十三行余

但右のり

一 茂谷毛貫目

五行数九四行

但右のり

一 米朝七百拾目

五行数九二行余

但右のり

一 指硬三百目

五行数九二行余

但右のり

一 忠孝之貫二百貳拾目

五行数九二拾二行余

但右のり

一 金多九拾目

一 砂多六拾目余

一 此書皮之指同余

一 牛紙 貳百七拾日余

一 いちり〜三并

右者社支取所打野中樂之自是為試正其撰要並の
分書物之通 田代公之

年十月

中川虎彈之公之公之公之紙書物之通 伊豆之殿長之
川海之公之公之公之公之公之公之公之公之公之公之
上之公之公之公之公之公之公之公之公之公之公之

十月廿二日

書之和泉之
矢於大之市

多就來書院友

年十月廿二日 田代公之公之公之公之公之公之公之公之公之公之公之
公之公之公之公之公之公之公之公之公之公之公之

矢於大之市
小若和泉之

義利廣鴻町醫師早野良悦 送書館之在出之信書

多就來書院

義利廣鴻町醫師

早野良悦

早野良悦
人形書院

石良悦之主人骨令細之仕公持送當時之當地之
在公知進之海國仕中石細之身早之骨節之機用之
子之送仕之仕公之有並之筋之身之身之送書館

以醫師一門を以て見ても其の石丸之為人は
之を以て其の石丸之為人は其の石丸之為人は
其の石丸之為人は其の石丸之為人は

十月

廣濟寺敬事切に謝書

廣濟寺敬事切に謝書

早野良悦

多紀永壽院

書の上り通多紀永壽院
文作後より仰渡り知信

二月二日

矢野良悦
小長谷和泉

多紀永壽院の上り書の上り通多紀永壽院
廣濟寺敬事切に謝書
早野良悦
矢野良悦
小長谷和泉
書の上り通多紀永壽院
文作後より仰渡り知信
二月二日
矢野良悦
小長谷和泉
矢野良悦
小長谷和泉
書の上り通多紀永壽院
文作後より仰渡り知信
二月二日
矢野良悦
小長谷和泉
矢野良悦
小長谷和泉
書の上り通多紀永壽院
文作後より仰渡り知信
二月二日
矢野良悦
小長谷和泉

席之舉見命一友有習是年正月永壽院中上
 如和共通云作波之海以醫師之方究其居命
 牙倍卡町醫師方出席の儀にて此の旨門ハ
 寅年正月永壽院中上如先是進通哲見命
 文作波の方門海の方其方之於行に相成
 筋中好い先達可選師自是道海會讀
 博叔小之出小見命の良悦也二十身力於行
 在出小出之門度年竟右細之為以醫師方見
 重出小之有首筋可相成分令細之為付小出
 小中門海小何一通醫學館は只命小之小若方
 云作波于院小好小私之評文信知書方一通

門海の別冊にて此の書句邊に記し上

上月

年上月十日之申及日信東後久命之

矢部氏之申
 小長吉和果子

真諾以醫師

叔中忠過

石醫學館に在出講書下仕有る波小名可小本意ハ
 石尚月六日申伊之新少補及以書付小之作波ハ
 叔中忠過が外科之西九真以醫師小如以方及真諾
 云 仰付忠過一代本道竹葉云 仰付是進取來
 小以書料 十子此系小命小有於七走之若以光中
 以列度戸向來女心致云仰波ハ此順ハ為以公以以

連中以上
年十月

多紀永壽院

矢野吉太郎
小長吉和泉子

年十月十九日

菊之回

高合醫師

山本宗英

右者 御意極也此は仰付

小普請以醫師 中月之他人之出入 醫書拾遺於於

醫學館書寫云 仰付の事乃、為、上寫之申す

後山の所取知立下云々

小普請以醫師

谷上恭安

以普醫師

卜菴悻

池田九伯

小普請以醫師

子賢通宗

以上

三月

多紀永壽院

一 蝦夷地野火の採集本

矢部貞之助氏
小長谷和泉子氏

一 門前府の箱入

四冊
武井三郎

石室医学館附録の致し書
成小舟山氏所建り以上

年三月

矢部貞之助氏
小長谷和泉子氏

多紀永春院

四月六日

小野蘭山

右蘭山文於醫學館附録讀書下仕有昨二日返付得奉教

川書付の紙に依り成小舟山氏より成小舟山氏書付了
列紙川書付以上

多紀永春院

矢部貞之助氏
小長谷和泉子氏

多紀永春院

小野蘭山

於醫學館附録讀書紙に依り

小野蘭山文に依り

小野蘭山

石室山文於醫學館附録讀書中川書付方雜用示

下巻仕交其教の次之

四月二日

多紀永壽院

四月二日 藤原氏教田中台藏の御下之旨四月十日人
上之旨口人云御下之旨附返上

書九付通知を以て

四月三日

多紀永壽院

席頃之御書

多紀永壽院

昨日所書醫師子田之知文醫國典子館世治後多紀
安長少中其莫台田使乃以相勅之旨文 仰付
小名右門進師野子之知文世治後子傳相勅在左

小名合門進師以番進師之旨席頃以所台切共
之知文之御書後之知文子傳以所台於醫學館
之知文之知文之旨席頃相勅以て之旨文以以上
四月二日 多紀永壽院

書九付上之旨永壽院

文仰後の旨文仰後取

四月三日

少中相勅

書九多紀永壽院上之旨番進師子田之知文醫學館
世治後之相勅有文 仰付之知文合門進師野子
之知文世治後子傳勅之旨文以以上之旨文合門進師以番
進師之旨文以以上之旨文以以上之旨文以以上之旨文以以上

子傳牙於醫學館之告知書
公約之書
合醫師以普醫師
之席次
告知子傳之告知書
小野蘭山

矢野英之
小長谷和泉

小野蘭山

石室山溪一昨之醫學館
移中
以技持子雅用
御津也教之

多氣壽院

矢野英之

小長谷和泉

小野蘭山

右道為中為
令式拾之
公以勘定

- 初尾儀 月次 小普請白出 伏 事
- △ 小普請 月次 小普請白出 伏 事
- 卯年 月次 慶火 伏 伏 事

番細、伏、事

○ 小普請 月次 小普請白出 伏 事

△ 小石川 卷中 不出 役 小普請 月次 小普請白出 伏 事

□ 小普請 月次 小普請白出 伏 事

○ 小普請 月次 小普請白出 伏 事

伏 事

小長吉 撰

小野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

小野 宗小 子 子 日 出 地 台 伏 事 者 并 入

○ 法 者 小 野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

○ 法 者 小 野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

○ 法 者 小 野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

○ 法 者 小 野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

○ 法 者 小 野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

○ 法 者 小 野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

○ 法 者 小 野 宗小 於 宛 令 讀 法 伏 事

去格列夜更の通ハ夜梅小ハ先和ハカト下カ
有下ハカト

二月

夫初先カ
小長古和泉書

石下先カカト格列夜更ハ夜梅小先和ハカト下カ
先カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ
布施カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ
和泉カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ
言カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ
一カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ

二月

小野蘭山於完全會讀カカト下カカト下カカト下カ
通カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ
以カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ

二月

多紀家書院

夫初先カ

小長古和泉書

去カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ

寄カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ

共カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ

一統カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ

以カカト下カカト下カカト下カカト下カカト下カ

以慶員以禮之儀仕交身然人上

二月

家業出情仕身月次人故身以礼子出多如也
治身之好少一者大乃通也

多紀家親

小善請組渡也年高配

村之良安

口仙石海之清支配

田次玄化

真也醫師 崇英悻

山本揚為

口岐名悻

医学館世後身他相勅之云

右田菜乃

兜真也醫師 元達悻

右田元愈

口西青悻

小野西節

真外科意悻悻

津恒良美

口南周悻

桂川南悻

真也醫師 宗運悻

山崎宗徳

真料甫特

坊本好意

家業出持法牙

御河川慶史之成之

山々者大々々通山成

寺合匠医師

春奉命院

口

森雲南

口

馬池瑞仙

小善請道室受之成之

是善店

口仙石津屋支記

東宗朝

口海台相原支記

系須堂行

口山口勅多成支記

秋枝山良

口白中智支記

和田春長

口波也平中支記

湯川安道

山口人支死

福井善道

岩合良醫師松乃伴

河津良次

山口宗坑伴

坊仲卷

小菅醫師小卷伴

松代九伯

山口六乃伴

坂三卷

山口亥乃伴

津中為伯

善請組吉賀三友支死

道有伴

千賀道兼

石道山彦次

三月

六月廿六日

多羅壽院

岩合醫師

小菅清醫師

真醫師伴

岩合醫師伴

小菅醫師伴

右幸始之氏乃月次小出礼之氏也
子也其家也又家也或又法眼小出氏也
有之氏也右之氏也細下之氏也
氏也其家也

六月廿六日

小長谷和泉寺
矢部元中

多紀永壽院友

代考合家極者斗初 御目見

付之氏乃續奉始也乃月次出礼之氏也

上之氏也代考各之氏也其家也

前之氏也其家也其家也其家也

其家也其家也其家也其家也

醫師辨大之氏乃月次出礼之氏也

業持別も情者達 上聞為川廣負之氏

其家也其家也其家也其家也

其家也其家也其家也

六月廿七日

多紀永壽院

矢部元中

小長谷和泉寺

右之氏相分兼之氏也又下之氏也

下之氏也 信事役之氏

代々合家抱者斗初 御目見古法身

帝續奉始之臣与月次以礼礼之と云云

一代若合之法眼之御付の者并一代若合之医師也

奉始之臣与月並礼礼之と云云

小普請医師奉始以礼斗云云と云云

並礼礼之と云云是之皇家格別之禮也

建上聞為以慶賀之御付の以政令之と云云

真醫師拜又法眼之代寄合之取柄也

分初 御目見古法身 續奉始以

臣与月並礼礼之と云云御書以見出出云云

始以礼斗之と云云御下之礼之と云云

若合之取柄也 真医師之拜之臣与月並礼

子出之臣小普請以云云

代々寄合家抱者斗初 御目見古法身

の臣以續奉始之臣与月並礼禮之と云云

斗云云一代若合之拜并法眼之御付の者

以礼斗之と云云

以普請医師斗初 御目見古法身

以礼斗之と云云

六月

多紀奉院

小普請医師小石川春中其外出役御物者

と奉始之臣与月並礼礼之と云云

介行の法合あり右所礼を申出女中より是又
彼取新交好あり下礼之申す多品彼を好空
小長谷程水屋
矢野虎之守

小普請組支配中

小普請醫国師若川養生所より外出波相絶
者幸始之節白月並ふ以禮致し之申出候事
其介行の法合あり右所礼を女中より申出
又以取知候交好あり下礼之申す候様にて
書向候波取知候取調し之申出候事以上

六月十六日

小長谷程水屋

矢野虎之守

小長谷程水屋

六月十六日 病津を致し申出下候取調し之申出候事
以上

以廣更打之候事あり為向 多氣聚病院

取業出候候は月次又節句以礼を申出候事
仰付之無事あり候事以上

小普請組波也申出候事

村上良安

奥田医師共英輝

山本瑞房

医学館世話役山本瑞房

家業出情法乎
御河の慶安の蔵下
下流の事一及一通の事

分合出医師

高橋清伯

小善治組仙名簿存文記

田代玄仙

山室賢子愛子文記

因壽庵

山崎相模子文記

奈須玄竹

山崎勤房文記

秋枝仙良

山田中務文記

和田春長

山波田重房文記

湯川安道

山入文記

福井重成

奥山医師使卷帳

右田宗右

奥山外科書信帳

津波良宗

南園軒

桂川南隱

真山鐵料宗運軒

山陰宗徳

真山料南軒

妙法收量

名合山醫師松方軒

河津良次

山番醫師上方軒

北水九伯

山本水軒

坂三益

小善請組室賀寺夜寺記

道百軒

子賢道孝

石通山虎山次と

六月

石門山

山鹿山虎山次と書す

尚之月中山醫師出情法者武拾一人山鹿山虎山次

及山鹿山虎山次之親族相立后山鹿山虎山次

及山鹿山虎山次之親族相立后山鹿山虎山次

此ハ書院ノ如ク交ハルル者ハ其ノ年々ノ人数多ク且
真ハ醫師ト稱ス者ノ人数多ク何モニ統テ更
々其ノ交ハルル者又情選仕テ之旨ハ抑少クハ對
極ノ擇列紙十九人ト云ハルル者ハ其ノ年々二倍
七人ト云ハルル者ト云ハルル者ハ其ノ年々
其ノ交ハルル者ハ其ノ年々二倍ト云ハルル者ハ
何年ト云ハルル者ト云ハルル者ハ其ノ年々二倍ト云ハルル者ハ
抑仕及テ其ノ

一 進東醫醫學館以改定云 抑出ノ後ト列ノ也

此ハ醫師ト稱ス者ノ人数多ク何モニ統テ更
々其ノ交ハルル者又情選仕テ之旨ハ抑少クハ對
極ノ擇列紙十九人ト云ハルル者ハ其ノ年々二倍
七人ト云ハルル者ト云ハルル者ハ其ノ年々
其ノ交ハルル者ハ其ノ年々二倍ト云ハルル者ハ
何年ト云ハルル者ト云ハルル者ハ其ノ年々二倍ト云ハルル者ハ
抑仕及テ其ノ

一 此書院ノ如ク交ハルル者ハ其ノ年々ノ人数多ク且
真ハ醫師ト稱ス者ノ人数多ク何モニ統テ更
々其ノ交ハルル者又情選仕テ之旨ハ抑少クハ對
極ノ擇列紙十九人ト云ハルル者ハ其ノ年々二倍
七人ト云ハルル者ト云ハルル者ハ其ノ年々
其ノ交ハルル者ハ其ノ年々二倍ト云ハルル者ハ
何年ト云ハルル者ト云ハルル者ハ其ノ年々二倍ト云ハルル者ハ
抑仕及テ其ノ

中村玄稔ノ書院
多紀永壽院

高武松人扶持

小普請組
森川誠記
中村之禮

石中村之禮公年宗之格列之乳腸の者に宗座の
功の家業の爲に忠情に相慰に用立てり
公の好み且八十及の母を之に如小父之腸に
向ふ心意の在る孝養之行届兼願其種
公が相嘆老母を幼年之種女に思ひ以て
之に勸勝の旨を思ふに續出來公の思ふ才
也終に之公臥之に府の所取及り公近以番
医師并養生所出役の人撰り而支配人なり
上公有之に用又私人なり之に府の如く公

高村以番医師 古道之人 減一の如くて之減以
公の好み且八十及の母を之に如小父之腸に
向ふ心意の在る孝養の行届兼願其種
公が相嘆老母を幼年之種女に思ひ以て
之に勸勝の旨を思ふに續出來公の思ふ才
也終に之公臥之に府の所取及り公近以番
医師并養生所出役の人撰り而支配人なり
上公有之に用又私人なり之に府の如く公

六月

多記米高院

六月十九日

是汝百二撰方本卷

一部 十冊

永王燭著

石書公年七月板訂仕所中何如得道文
作後公御上東法寺林上仕後醫學館に於
林館仕所以用番宗座御而之故に書を建仕

重山の脈一と重山はとて

二日

小野蘭山

子田玄知

本年六月十日各御津と教之の脈之脈液

矢野玄知

小野蘭山

小野蘭山

常地右ノ下ノ山舟為以子常二十人技持糸ノ生

匠高地匠右技一為疾筋以用て靴ハ

右ノ通中液ハ右下ノ山ノ技持糸ノ生

本年六月十日各御津と教之脈液

多紀永高院

糸野町医

小野蘭山

為地右ノ下ノ山舟為以子常二十人技持糸ノ生液

常地匠右技一為疾筋以用て相靴ハ

右ノ通中液ハ右下ノ山ノ技持糸ノ生

右ノ通中液ハ右下ノ山ノ技持糸ノ生

小野蘭山舟為以子常二十人技持糸ノ生液

常地匠右技一為疾筋以用て相靴ハ

右ノ通中液ハ右下ノ山ノ技持糸ノ生

右ノ通中液ハ右下ノ山ノ技持糸ノ生

右ノ通中液ハ右下ノ山ノ技持糸ノ生

親身安長に後其の醫術を身山宗英医学館に傳へしに後其の

本年七月廿六日安長と建一と其の母を

多紀宗虎

石朝の通院后に 仰付家督に相違安長に

卜重数奉出信相物に身安長取来に普縁に為院

后料 卜重親分宣安長に 仰付后同に其出に

多紀安長

一醫學館に成り永為院通に引請世話に依

り以扶持方之拾人扶持に

石於七重に同京極備前守教に 仰渡に

七月廿六日

以番医師

子田玄知

是訓百撰方 一初十冊

宋王撰著

石書獻之に後医学館に成り献納に後院兼に

重知に為院に通旨に附礼に京極備前守教に仰渡

院有仕合に好に石に以能房に上重以上

七月廿七日

子田玄知

小野宗小女院席に席 仰目見に多紀

安長相臥に席末七月廿三日 仰目見に多紀

以有指博學致而絕其學之安長、亦決其如口
七日通其伊之於少博致其書付之、仰後

多紀安長
小野宗山

明九日

御目見之席方之、少少御 御環之、

公方稱 久純言稱之、扇子一箱宛先之、及

未八月廿日

醫學出情之、以達 御他一般之事、有以沙治、

似又如病之、及

多谷醫師

馬馮揚伯

石之 治身有於此石是、於危錄類老中列在

對之、一液、若幸者中、何、

伊更之、致、以液、致、於、何、

向、上、液、書、付

真醫師

杖久輝

吉田孝菴

袁伯輝

河野良系

南周輝

桂川南輝

宗運輝

仙石活字所支記

田代玄仙

海白相模支記

系須玄竹

室賀七支記

松島為

液旦平南支記

福井重

室賀七支記

道有伴

子頭道系

醫業上情一紙之事の形出請て致す

石通て支り液

夫の内九日御津子教中込候もの下下御是十日七支

江及支り候上

夫の内九日御津子
小共在御是

多紀安長

多紀安長

醫學館に代り永書院通し引請世話下は候

以及持方之人及持方候

石於不主し与物田御好支記

十月十日

以番醫師

小菅清組
海台相模支配

系須堂行

以番外科

日
他石活支店支配

村山玄重

石之印付有於以右筆初巨縁類伊豆中
後之若年寄中侍所

日十九日

以番出信身以番

真醫師

醫師以信身三人
彼乃多り

彼乃伴

右田某

日外科

南岡伴

徳川南孫

石之印身以番

外科以信身三人
彼乃多り

日

妻伯伴

津波良某

石之印身有於以右筆初巨縁類伊豆中
若年寄中侍所

未十月廿二日

小野宗山

石之印身有於以右筆初

御目見

伴身

以信身以信身始八親之書
以月次以礼也

伴

為法方有為七月申外書員山部如到通商月
十六日之於女博教之以後山且 御目見相謝
必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
出外如到通商口七位方博博教有口之以後
必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

未十月

多紀安長

交於其之前後
小長屋和果子及

書由伊也山部宗運代稱
博志往也出外之以後申部
必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
出外如到通商口七位方博博教有口之以後

申三月廿六日

多紀安長

為法方有為七月申外書員山部如到通商月
十六日之於女博教之以後山且 御目見相謝
必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
出外如到通商口七位方博博教有口之以後
必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員
醫學館代博 必付以來事口為法方所是又商九月中外書員

江戶府のりて子成會... 佐藤進比村子... 佐藤下...

申八月

多紀女長

書面... 次弟...

申八月

多紀女長

小野宗小孫樂場... 多紀女長

物境 志村 氣小 廣尾京 小野君

以治志 也寧...

石... 孫樂...

佐...

申八月

多紀女長

中奉九月... 信事...

小善請... 雲洞...

上月... 雲...

依... 雲...

醫園道... 雲...

小者... 雲...

中... 雲...

通... 雲...

一... 雲...

休意下々之也... 道丹... 一飯... 二季... 一... 館... 之... 但... 但...

右ノ通取斗テ...

九月

信事後

右ノ通取斗テ...

右ノ通取斗テ...

信事後

右者醫學館... 台町... 白醫...

右ノ通取斗テ...

右ノ通取斗テ...

右ノ通取斗テ...

右ノ通取斗テ...

石門の牙政醫學館に出席して度石門の
家主の七女に可也の可也相親の如勝の如也
出席の致有る一液の牙政出席の申す
當月十日醫學館に出席す

右の書面を致し出の牙未當所に出る如也
の旨宛相成りし月相歸の中以上

申す

長田十之助
小善之吉坊

右者皆察察之義秘之示
付掛付中未の内之備文後事
為見及石字有

文政五年年月

中基



Kitasato Memorial Medical Library